さとやま

里山基本計画の策定に向けた 里山活動を考えるワークショップ ニュース

第3号

みなさんこんにちは！　朝と夕方はすっかり寒くなり秋の訪れを実感する季節となってまいりました。
9 月 20 日に第 1 回、10 月 16 日に里山見学会を開催した「里山活動を考えるワークショップ」。10 月 25 日に第 2 回ワークショップを開催しました。
今回は 34 人のみなさんに参加していただき、「みんなが楽しめる里山にするための活動を考えよう！」というテーマで話し合いをしていただきました。

第2回ワークショップ「みんなが楽しめる里山にするための活動を考えよう！」

■日時：平成 30 年 10 月 25 日（木曜日）午後 7 時から 9 時
■場所：平成こども塾 丸太の家
■参加者：34 名
■プログラム：

(1)開会
- 今回のプログラムの説明

(2)前回までの振り返り
- 平成 27 年度開催の里山プランのワークショップの成果から第 1 回の意見をふりかえりながら、今回のワークショップで取組アイデアを深める４つのテーマを紹介しました。

①里山暮らし・思い出づくり体験の活動
②遊びや緑とのふれあいの活動
③里山風景づくりの活動
④農福連携の活動

(3)活動アイデアの検討（グループワーク その1）
- アイデアをカードに書きながら議論を行い、各グループのテーマごとに、核となる活動を整理していきました。

(4)アイデアの収穫・共有（ワールドカフェ）
- 他のグループを巡回して、話し合いの経過を聞きながら、他のテーマに対しても提案をしていただきました。

(5)活動アイデアの検討（グループワーク その2）
- 他のテーマでの意見交換を参考にしながら、元のグループでの活動アイデアを再整理していただきました。

(6)発表
- グループごとに話し合いの内容を発表していただき、核となる活動を共有しました。

(7)まとめ
- 全体でのまとめを行い、次回以降の予定をご案内しました。

各グループの話し合いの成果

①里山暮らし・思い出づくり体験の活動

このグループは、**『散策路づくり』**が活動の大きなテーマにあげられました。
東山地区の里山を起点にして、各地区をつなぐ「長久手自然歩道」を市民参加で作っていこう！
という取組が提案されました。

②遊びやみどりとのふれあいの活動

このグループでは「子ども」「親子」の里山活動が話し合われました。取組の柱として、**『親子・子どもによる里山づくり』**、**『昔の暮らしを里山で伝える』**、**『里山で思いっきり遊ぶ』**に整理され、これら３つの取組で「里山プレーパーク」を実現したいということが提案されました。

③里山風景づくりの活動

　このグループでは、里山風景づくり活動のためには、地主さんなどの協力を得ながら、**『活動フィールドの確保』「拠点施設の必要性」**について中心に話し合われました。
　その中では、それぞれにおける行政の役割、市民の役割などが検討されました。

④農福連携の活動

　このグループでは、**『福祉と連携した活動が里山でできないか？』**について検討されました。
　他にはあまり事例のない取組なので、里山で何ができるか？　悩みながらの話し合いになりましたが、**『まずはみんなで里山に行ってみることから始めよう！』**ということが提案されました。

＜ワークショップ後のアンケートの主な意見＞

○具体的なイメージがわく話し合いで、とても楽しかった。
○４つのテーマの中で皆さんの個性あるディスカッションがおもしろく、そして深い意味があったりで、とても勉強になった。
○人が集まれば建設的な意見が出て、アイデアが出てくる。そんな気持ちになった。
○より具体的になりつつある気がした。
○一歩踏み込んだ話ができてよかった。活動フィールドの問題を早く解決して欲しい。
○フィールドの確保について、先が見えてきた思いがした。良い方向に向かいたいと思う。
○活動フィールドへの協力は区でも致します。
○市役所は里山活動のフィールドを確保する。里山活動を市民へＰＲする。
○より具体的に話が進んで良かった。里山プレーパークに対するいろいろな意見が聞けてよかった。
○稲作を中心に里山を利用する場として活用していくスタイルをつくるといいと思う。稲作についての知識はあるが、里山整備の知識はない。勉強しながら進めていけるといい。次回は具体的に活動の話がしたい。
○里山活用のイメージだけでも各人各様の思いがあり、構想をまとめることは大変だと感じた。
○とても熱い意見交換ができました。それぞれの思う「里山」が少しずつ違っており、新しい視点で里山を考える機会が頂けた。
○東山で活動する方の問題点、苦労していることが理解できた。
○「農福連携」という言葉をまず知ってもらうことが大切だと思う。そして、福祉で何ができるかを協議していきたい。今回は里山で障がいのある方が活躍できそうな様々な意見が聞けて勉強になった。
○「農福連携」を長久手市がどうとらえるか…。どのような形が長久手市（里山計画）にとっての「農福連携」なのか…。もう少し時間をかけての議論が必要と感じた。
○他の地域の事例を紹介して欲しい。平成こども塾を夜に使うのはよい。
○地域の思いと活動する人の思いをうまくつないでもらいたい。まずは、市民の方に来てもらって、知ってもらうことが大切。
○平成こども塾周辺の里山とそれ以外の里山、ケースごとに考えなければならないことが難しいと思った。
○長久手の里山景観の抽出を期待する。
○予算（資金）の話もして欲しい。

次回のご案内

◆11 月 8 日（木曜日）午後７時から、平成こども塾丸太の家にて、**里山アドバイザーの眞弓浩二先生の講演会**
◆11 月 22 日（木曜日）午後７時から、平成こども塾丸太の家にて、**第３回ワークショップ**
みなさん、ご参加をおねがいします！

【お問合わせ先】　長久手市みどりの推進課
電話：0561－56－0552